

次期計画策定に向けた本市の取組

懇話会の概要と流れ



第3期プランの振り返りと体系整理

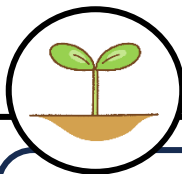
第1回懇話会（令和7年5月15日（木））

懇話会の目的

- ① 現状や振り返りから見る本市の課題
- ② 次期プランの体系整理の確認

懇話会の流れ

- ・案件（1）懇話会の概要スケジュール、趣旨等
次期計画策定に向けた本市の取組
- ・案件（2）第3期プランの振り返り
- ・案件（3）次期計画の体系整理について
- ・今後の予定について



骨子案の完成

第2回懇話会（令和7年7月予定）

懇話会の目的

施策の中身（主な取組等）の確認

- ・統合整理後の体系での施策内容の確認
- ・各施策に適切な主な取組（第3期+新規項目）

各施策の内容の充実・骨子案の完成

第1回の内容をふまえて、本市に必要と思われる具体的な取組についてご意見をいただく



プラン素案の完成

第3回懇話会（令和7年10月予定）

懇話会の目的

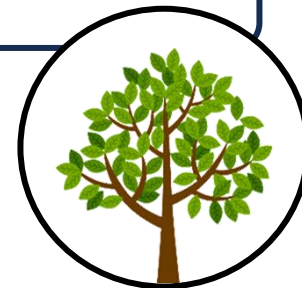
各施策の内容の充実・プラン素案の完成
成果指標の確認

修正案の完成

第4回懇話会（令和8年2月予定）

懇話会の目的

第3回の意見やパブリックコメントをふまえた修正案の報告



(1) 次期計画策定に向けた本市の取組

- ▶ 策定の趣旨、位置づけ
- ▶ 本市における次期計画策定に向けた
コンセプトと取組

市の教育を「自分事」に



教委事務局と学校現場の協働

(2) 第3期プランの振り返り

- ▶ 5年間の変容（市、国、社会情勢）
- ▶ 第3期プラン振り返り（WG意見）
- ▶ 基本施策振り返りシートまとめ

現場の視点 教員の振り返り



行政の視点 教委事務局の振り返り

(3) 次期計画の体系整理について

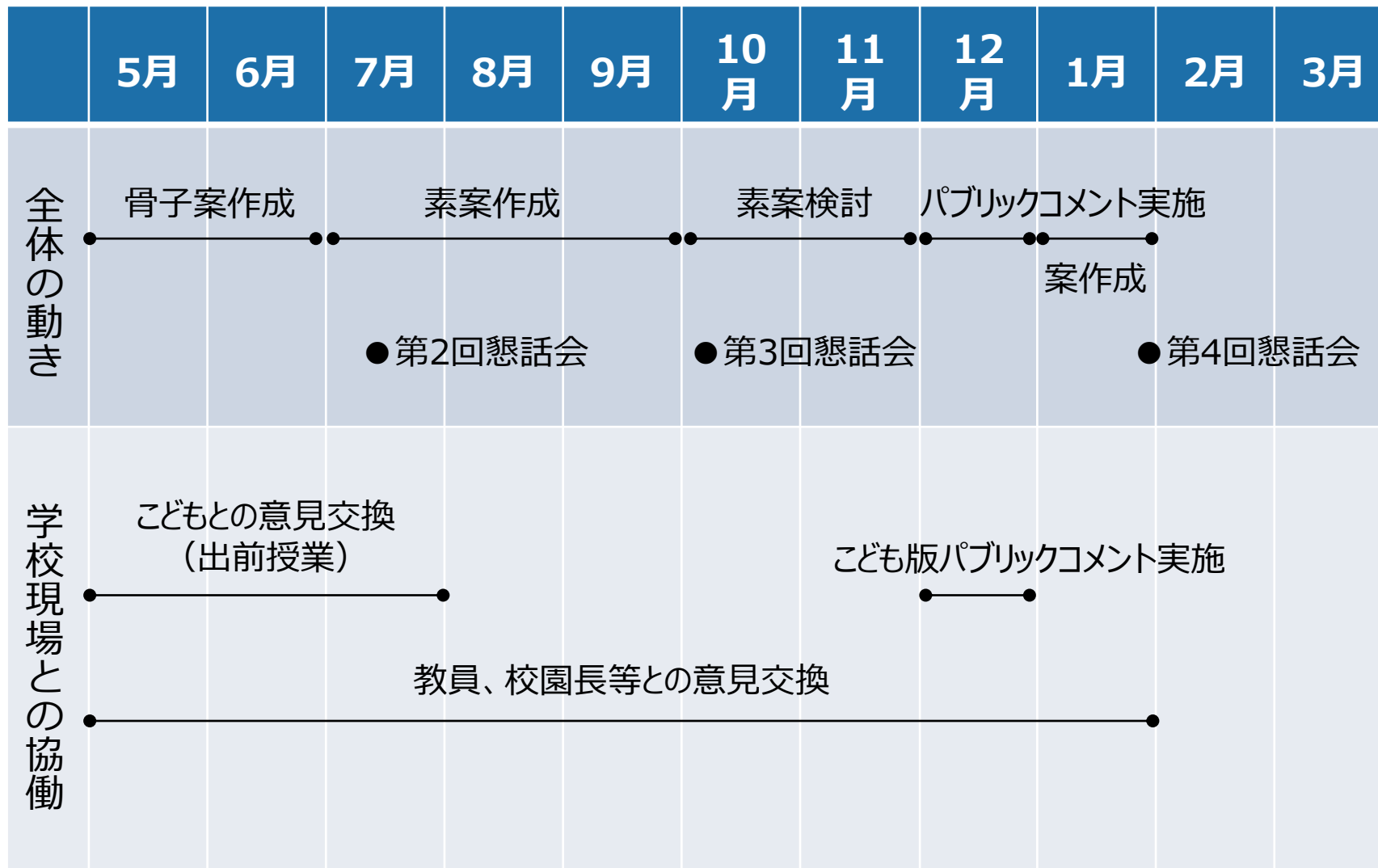
- ▶ 体系整理について
- ▶ 次期計画体系整理案

「わかりやすさ」「読みやすさ」



基本的方向性等の整理

次期計画策定スケジュール（予定）



趣 旨

教育基本法第17条第2項に規定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、本市の教育の充実に向けた基本的な方向性を示す。

(参考) 教育基本法第17条第2項

「地方公共団体は、前項の計画（※）を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。」

※前項の計画：国が定める教育振興基本計画。第4期計画が令和5年度に閣議決定された。

計 画 期 間

令和8年度 令和12年度
5年間

社会状況の変化等に応じて、
随時、取組の見直しを行う。

計 画 の 範 囲

学校教育を中心として、家庭、地域社会も含めた教育に関わる取組を範囲



次期計画の位置付け

国の第4期教育振興基本計画を参酌し、堺市教育大綱や堺市基本計画等との整合を図る。

国

本市の計画

教育基本法第17条第1項



第1期 (H20-24年度)

第2期 (H25-29年度)

第3期 (H30-R4年度)

第4期 (R5-R9年度)

教育振興基本計画

基本的な方針
講ずべき施策等



参酌

堺市教育活性化プラン (H18-21年度)

未来をつくる堺教育プラン (H23-27年度)

第2期 未来をつくる堺教育プラン (H28-R2年度)

第3期 未来をつくる堺教育プラン (R3-7年度)

**次期堺市教育振興基本計画
(R8-12年度)**



整合

各種計画等 堺市基本計画 堺市教育大綱 堺市子ども計画 など

次期計画策定に向けた本市のコンセプト

こどもを含む本市教育に携わるすべての人が、市の教育を**自分事**と捉え、**次期計画で示す教育ビジョンを納得、共通理解**した上で、**主体的・協働的に教育活動に取り組めるようになる**ことをめざす。

第3期プラン策定時

<庁内委員会>

- ・代表校園長（4名）
- ・教育委員会事務局
- ・市長公室
- ・市民人権局
- ・子ども青少年局
- ・健康福祉局



<懇話会>

- ・有識者（7名）



新たな取組を加え**拡大**



<学校現場> NEW

- ・こども（生徒会の集いなど）
- ・校園長（校園長会での報告）

教職員、教委事務局 NEW

ワーキンググループ(WG)

<庁内>

- ・庁内全局（照会）



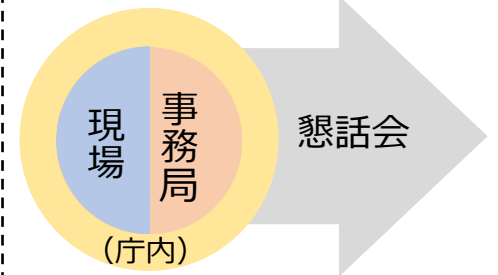
<懇話会>

- ・有識者（10名）



懇話会との関連イメージ図

意見交換の内容を土台として
懇話会の議論につなげる



こどもの意見交換

- 目的**
- ・こども基本法の観点（下記参照）から、**市内の児童・生徒の意見を次期計画に取り入れる。**
 - ・児童・生徒が次期計画をより**“自分事”**として捉え、**自分たちが受ける教育について主体性**をもつ。

- 方法**
- ・令和7年1月実施の「**生徒会リーダー講習会**」にて、生徒会代表生徒が意見交換。
 - ・令和7年度、小中学校での出前授業を実施。（希望校）



- 議題**
- ・次期計画に関わる分野から議題やテーマを設定して取り組む。

ワークショップ型の
グループ協議



次期計画に関わる分野	議題 テーマ（例）
授業改善・学力向上	「好きな学び方、好きな授業」など
ICTの利活用（教育DX）	「児童生徒用PCを使ってできること、したいこと」など
人権教育・不登校対応	「みんなが安心して通える学校に必要なことは？」 「これからの学校の通い方」など

（こども基本法 第一章総則 第三条より抜粋）

三 全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。

四 全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること。

第3期未来をつくる堺教育プラン



堺教育プランって何のこと?

堺市の教育の方向性について書かれているもの。今の時代にどういったことを学校で学んだらいいのか、どんな教育が必要なのかを示し、市内のどこの学校でも同じ目的をもって授業などの教育活動ができるように作られています。

よくわからへんなあ。
どういことが書かれている?



堺市の教育が大事にしているところや、目標が書かれています。その目標を達成するための取組、たとえば、「ICTを活用した授業改善」や、「学校のトイレや空調などの施設整備」、「安全・安心でおいしい給食の提供」など、授業だけでなく、学校に関わる様々な取組が書かれています。

今の堺教育プラン 令和3年度～7年度

現在は2026年からはじまる次のプランを作っている最中です。様々な方の意見を聞く中で、実際に授業を受けている生徒のみなさんにしかわからない視点からの意見も取り入れ、みんなにとってよりよい学校、授業、教育活動をめざしています。



活動の流れ

事前課題

事前課題として、議題に基づく2つの質問について、それぞれ2テーマずつ、計4つの質問に対する意見をteamsを使って、共有しました。
例) 議題「みんなが『わかる』『できる』ようになる授業とは」
→①「私の学校の楽しい授業・学びになる授業」②「授業や勉強が『わからない』『できない』時の私の対処法

教育長への質問

当日はまず関百合子教育長と質疑応答。「教育長という仕事のやりがいは」「ICTのよりよい活用とは」「堺市に来てよかったところは」「なぜ義務教育は中学校までなのか」「6月からはじまる給食で楽しみにしているところは」など、質の高い質問。教育長からは深く、かつわかりやすい回答をいただきました。リーダーフォーラムに向けての気持ちがぐっと高まりました。

グループ協議

事前課題の内容をもとに、それぞれ2つの議題について意見交換をしました。「うちの学校では～」と、学校代表として、堂々と意見を言い、そして教育長からのお話にもあった「対話」を意識して、互いの意見を真摯に受け止めていました。「時間が足りない!」という声もよく聞こえるくらい、一生懸命に堺市の教育について協議しました。

まとめの作成

2つの議題から1つ選んで、模造紙でまとめを作成。時間がないうち、構想を練り、役割を分担し、時間内で可能な範囲、かつ内容が深くなるように議論も続けながら、作成していました。互いに「字がきれい」、「それいいな」などとポジティブな声かけをしながら、和気あいあいと作成しました。最後は、グループごとの発表も行い、充実した時間となりました。

2025年1月 リーダー講習会 リーダーフォーラム
参加生徒(各校生徒会代表生徒 計16名)

- | | | |
|---------|-------------|-------------|
| A グループ | | |
| 東百舌鳥中学校 | 殿馬場中学校 | 浜寺南中学校 |
| 長尾中学校 | 登美丘中学校 | 泉ヶ丘東中学校 (A) |
| B グループ | | |
| さつき野中学校 | 津久野中学校 | 宮山台中学校 |
| 金岡南中学校 | 泉ヶ丘東中学校 (B) | |
| C グループ | | |
| 月州中学校 | 大泉中学校 | 美木多中学校 |
| 晴美台中学校 | 鳳中学校 | |

令和7年1月24日(金)

リーダーフォーラム 意見のまとめ

目的

次期教育プランに
自分たちの意見を反映させる
自分たちの受ける教育に
主体性を持つ



自分たちの教育は自分たちで作る!

議題

みんなが『わかる』『できる』ようになる授業とは

学校でICTを使ってできること、したいこと

一人ひとりが安心して通える学校とは

考えたことや意見

みんながわかる/できるようになる授業とは

簡潔にまとまっている
 小話等を途中で入れてくれる
 たとえ話があると分かりやすくなる
 一人だけで進めるのは記憶に残りにくい
 勝手に一人でしゃべっている先生の授業は嫌だ
 パワーポイントや授業の構成がうまい先生の授業

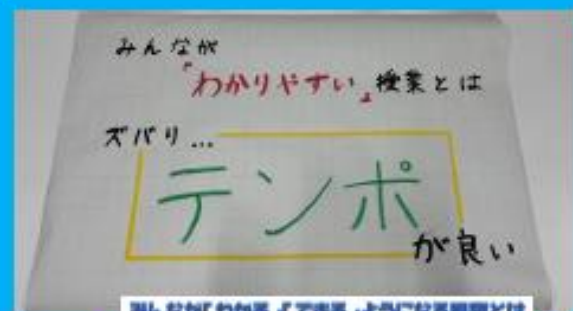
勢いが大事!

学校でICTを使ってできること、したいこと

月一タイピングマッチ
 ドリルパークみたいな教育系のアプリを入れる
 テストで偏差値を出してほしい
 パワーポイントを使っての調べ学習
 ホワイトボード機能等を使っての授業
 調べたことをパワーポイントで資料作り

まとめ

普段受けている「わかりやすい」授業について協議していく中で、「テンポ」が大切だと意見が一致しました。多くの先生の授業が「楽しい」「わかりやすい」という前提のもと、パワーポイントのアニメーションを適切な長さに設定したり、たとえ話や小話が長くなりすぎないようにしたり、適度に質問を生徒に投げかけたりしてくれると、授業がよりわかりやすくなる。とまとめました。



みんながわかる/できるようになる授業とは

考えたことや意見

学校でICTを使ってできること、したいこと

自分で調べる能力 情報共有よき
 紙を使った授業はPCより信用がある
 数学だと図形の動きがわかりやすい
 自分で考える時間が減ってしまう 提出物が楽
 紙の方がいつでも使える 個人情報の漏洩
 資料が作りやすくなった 授業と関係のない利用

SOGs よき

盗撮

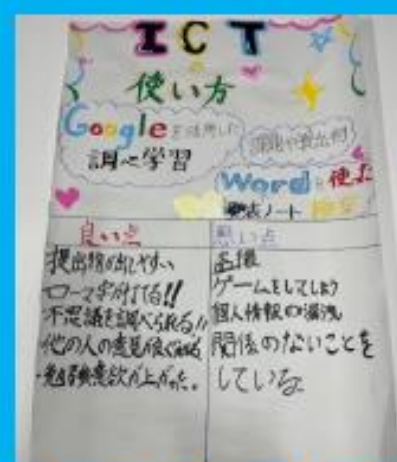
一人ひとりが安心して通える学校とは

気軽に相談したい
 他人と比べてしまう
 自分はどう思われているのか

勉強 成績 将来 様々な不安 受験 人間関係 ウイルス 自分自身

まとめ

中学生の、ICTの活用方法について考え、その中で良い点、悪い点について整理しました。
 調べ学習で使用したり、課題や提出物で使ったり、発表ノートを用いた発表をしたり、様々な形で使用しています。良い点として、ICTによって提出物が出しやすくなった、ローマ字が打てるようになった、不思議を自由に調べられるなどある反面、不要、不適切な使い方を止めたいと話していました。



学校でICTを使ってできること、したいこと

考えたことや意見

みんながわかる/できるようになる授業とは

孤立してしまう生徒には先生と一対一で話せるような状況づくりが大事?
 自習室でわからないところをカバー
 基礎固めのための放課後の自習時間
 クラスの学力差→話しにくい環境
 互いに協力したり質問ができる環境
 クラス数が多いと仲の良い子で困ってしまう

毎時間の振り返り

振り返りの重要性

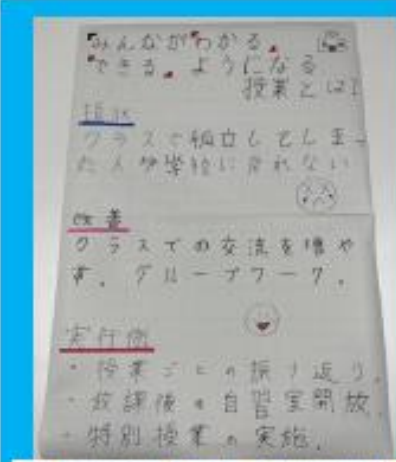
一人ひとりが安心して通える学校とは

一つでも居場所を作ってあげることが大事
 一度タイミングを逃すとうまく戻れない
 定期的に他クラスとの交流→クラス替えに対応
 転校生にも配慮した環境づくり

交流の場

まとめ

「クラスで孤立すると学校から離れてしまい勉強についていけなくなる」という現状を、どのような改善・取組ができるのかまとめました。
 改善としては、クラスでの交流や、グループワークを増やしてほしいと意見しました。
 具体的には、特別授業や自習室の開放などがあれば、より多くの人と交流することができ、孤立を減らし、勉強もがんばれるのではないかとまとめました。



みんながわかる/できるようになる授業とは

学校現場の教職員と教育委員会事務局の職員との意見交換（WG）

目的 ・次期計画に、**現場で働く教職員の意見や思いを取り入れるために、協働的に次期計画を作成する。**
 ・市の教育方針や目標を、「**自分事**」、または「**自校の事**」として捉え、市全体で**教育ビジョンを共有**する。

方法 ・学校園から推薦された**教職員がワーキンググループ(WG)に参加。**
 ・できるだけ**教職員の負担を減らす**ため、オンラインミーティングも含めた**ハイブリッド型のミーティング**を計画。



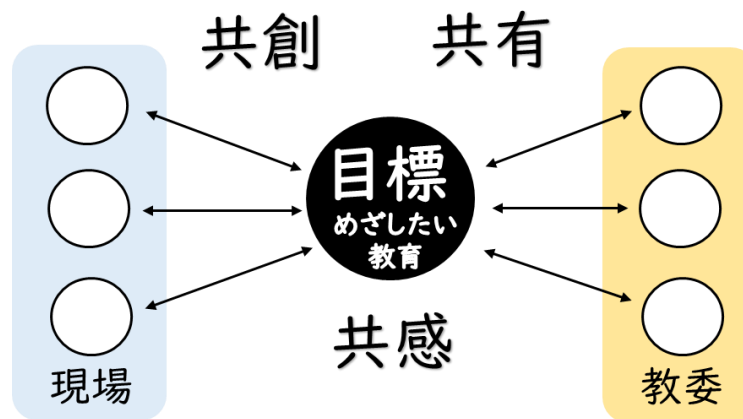
ワーキンググループ（WG）での意見交換（構成：幼・小・中・高・支援学校から30名、事務局19名 計49名）

👁️ 学校現場からの視点

- ・めざし“たい”こども、学校、教職員の姿
- ・現場の困り感、課題感

👁️ 教育委員会事務局からの視点

- ・本市、各部課の課題感
- ・市民にとってもわかりやすいものか
- ・めざすべき方向性と、各種施策、成果指標、指標達成が可能な取組か、ロジックが成り立っているか



共に作り上げるプロセスを通じて、
 教委事務局と学校園が同じ方向・目標をもち、それぞれの立場で取り組む。
 教育プランを「渡されるもの」から、「**自分たちで考え、作り、実行していくもの**」へ

ワーキンググループの活動（3つの分科会に分かれての取組）

第0回（オンライン）

第1回（2月、3月）

第2回以降（令和7年度）

① 共通理解

それぞれのテーマについて、勤務する中で感じていることや考えていることを共有する。

ねらい

- ・テーマを「身近」な内容に落とし込む
- ・課題観や教育観の違いや同じところを共有し、スタート地点を揃える

② ゴールの明確化

各テーマのゴールについて共通理解し、めざしたいゴールを明確化・具体化する。

ねらい

- ・テーマの先に見ることも、教員、学校のイメージをより具体的に共有する
- ・同じゴールに向けて、③の活動に進めるように共通理解を深める

③ 具体的な活動・取組

②のゴールに到達するために、具体的にどのような活動や取組が必要なのか提案する。

ねらい

- ・ゴールに向かって着実に進めるような道筋を立てる
- ・理想を現実により近づけるために、どのようなことが可能なのか、または難しいのかを共通理解する

④ 評価方法

③の活動・取組をどのように評価できるのか、評価方法や指標について考え、提案する。

ねらい

- ・市の施策として、達成度や進捗を評価する方法を理解する
- ・どのような方法なら、学校園や事務局のよい取組が認められ、評価されるのか議論する

2025年2月18日（火） 3月10日（月） 3月18日（火）

第1回次期プラン策定に係るワーキンググループミーティング

まとめ（抜粋版）



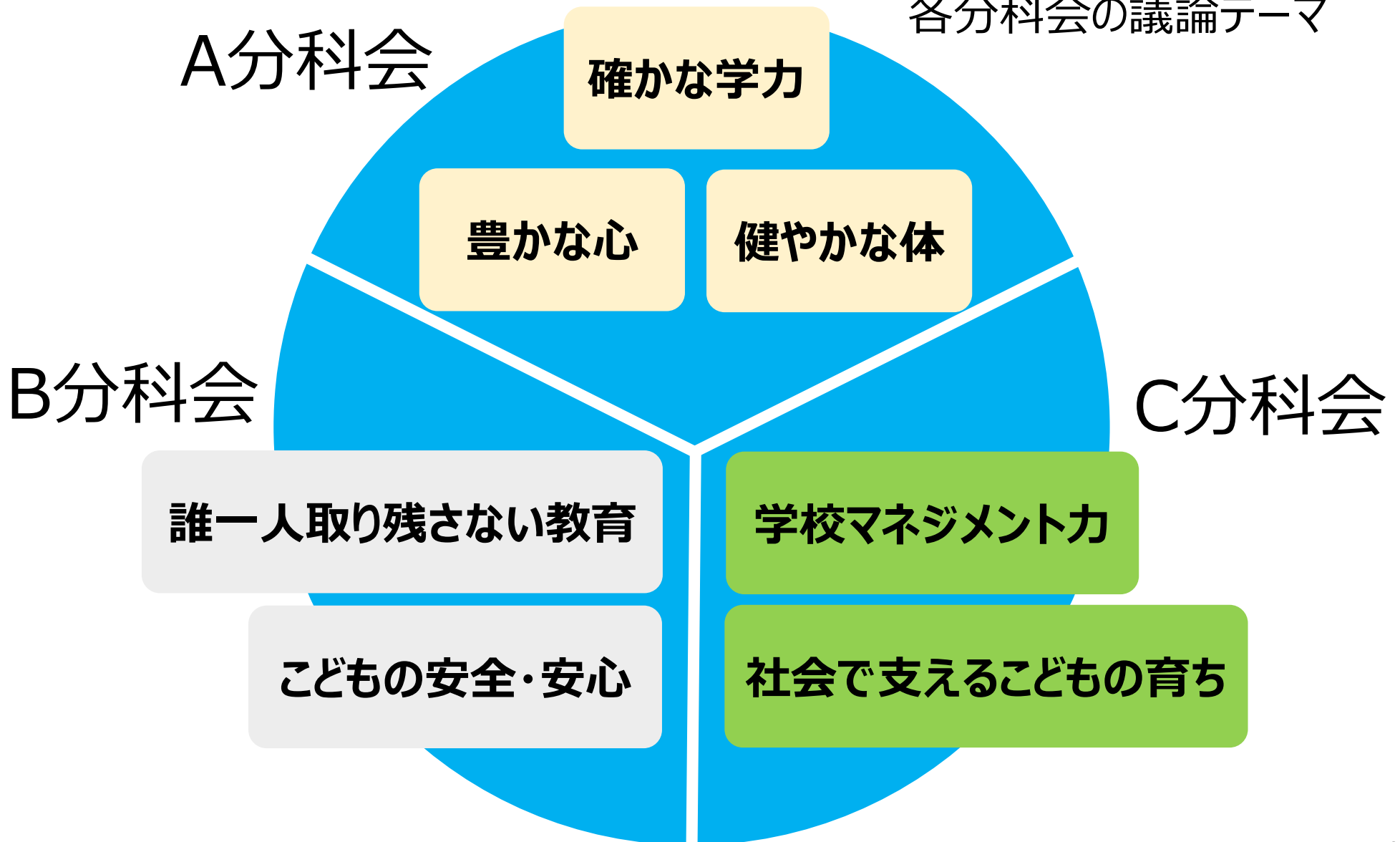
第1回のゴール

各テーマのゴールについて**共通理解**し、
めざしたいゴールを**明確化・具体化**する



（例）「誰一人取り残さない教育」が達成されていることも、教師、学校ってどんな姿？

各分科会の議論テーマ



確かな学力

自ら学びを進めることができる力のあることも

自分が学んだことが社会や地域にどう生かされるのかを考えられる

【社会や地域で活かす】
【先につながる】

- ・ 学びの自覚
- ・ 新たな疑問の発見
- ・ 学びを実生活に転用
- ・ 「学んだ後」に発揮される力
- ・ 未来を推測する力
- ・ 教科、未来、実生活 etc..への「様々なつながり」

こどもの未来の姿
近い未来、遠い未来を見据える

ふり返り
未来

目的
疑問
課題

【自ら目標を立てる】

- ・ 実生活と強い結びつき
- ・ “ふしぎ”を見つける
- ・ 興味をもつ
- ・ 課題を自ら発見する
- ・ 自らめざす方向性

教師の場の設定
興味喚起、動機付け

【自ら学びを進める】

- ・ 学びの方法の蓄積
- ・ 学び方の学び
- ・ 批判的思考、選択する力
- ・ 思考のための材料、資料、道具の整理

教師が多様な学び方を提示
協働から徐々に自律的な学びへ

豊かな心

人生を楽しみ、未来を明るく語れることも

日々を楽しみ、これからの日本・世界を考えて行動できる

未来

人生を楽しむことができる
楽しみにしている何かがある
夢・目標がある

日々の生活に満足している
豊富な知識を身につけている
先の日本・世界を考えて行動できる
「これからの日本は自分たちが作り上げていく」という思い

臨機応変に対応 集団・社会と調和 自分も他者も大切に

自分 他者

相手を思いやれる、大切にできる
他者の意見を尊重できる
他者から認められている
だれかのために働くことを楽しめる
他者の違いを受け入れられる
偏見がない

道徳心がある 誠実である
物事を多角的に捉えられる
自己効力感・自己有用感
自分の居場所がある
自分を大切にすることができる
確かな人権感覚を持っている
自身を持っている何かがある

良好な家庭環境 愛情を受けて育っている 自然を美しいと感じられる

土台

色々な人から愛情を受けている
堺、日本で育ったアイデンティティを大切に思える
相手のアイデンティティに対して理解する姿勢
自分の国を誇りに思える 大切に思える

健やかな体

夢を持ち、自己実現できることも

心身の健康を自ら育み守れる自己管理能力の育成

日々元気に明るく過ごせる
生活リズムを整えることができる
自分のしたいことができる心身
自分の思い通りに体を動かせる
自分の体の望ましい状態の維持
十分な睡眠時間の確保（スマホ等の自己管理）

将来後悔しない体づくり
生涯に通じる運動意欲
体育や家庭科での学びを思い出せる
自分の体について正しい知識と対処
望ましい栄養や睡眠の理解

食の安全性への関心を持つ
食生活を適切に判断する
食の課題を解決する力
自分に必要な運動量の理解
メンタルと身体の関係の理解
自分のやりたいことができるだけの体力

健全な生活を送るための
基礎となる知識・技能を持つ
電磁波やブルーライトの危険性を理解し、
付き合い方を考えることができる

自分に必要な食の知識がある

よい姿勢で過ごせること
自分の体に興味を持つ
学校給食や教科を通じて、知識・技能を蓄積
自分で必要な栄養について理解

力・心・体のあるこどもの姿

確かな学力

Key words

- ・ 学び続ける姿勢
- ・ 学び方
- ・ 自ら問いを見つけ、挑戦していける

こども

教員の意識改善
共通目標の設定
教員は伴走者

豊かな心

Key words

- ・ 人権意識
- ・ 多様な価値観を認め合って交流できる、対話できる

こども

人権を常に意識
こどもの見本
地域等連携

健やかな体

Key words

- ・ 生活習慣の重要性がわかって、自分の生活に取り入れられる（大人になっても!）
- こども

体と向き合う
健康を保持
食育・眠育

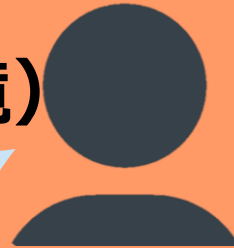
誰一人取り残さない教育

社会に出たときに働きつづける人
社会とつながりつづける人

こどもの姿



教員の姿



学校の姿



学び続けられる人
(学び続けられる環境)

つながろうとする人

こどもと… 教員と…
保護者と… 学校間で…

連携がある学校

(学校群)

(学校間)

(NPO、福祉、
行政…など)

様々なリソース

こどもの安全・安心

通学路の安全

地域等と連携した見守り

交通安全

地域の中で守られる

給食

安全・安心な学校給食

主体性の確立

こどもの参画

不審者対応

身を守る行動を取れる

チーム学校

教員の資質・能力の向上

チームで対応できる
教員

防災

防災教育の充実

広がり

広がり

校内での連携

地域との連携

地域と学校の信頼関係



多職種との連携



授業環境

+

施設環境

学びの場

身体的な安全・安心

- ・ハード面の整備
- ・耐震性、健全性の保持
- ・学校の適正規模の順守
- ・非常時でも快適な施設
- ・快適な学習環境 など

居場所

精神的な安全・安心

- ・こどもの意思が尊重される
- ・言いたいことを言える場
- ・自己選択・自己決定できる
- ・いじめがない
- ・自分も人も大切にされる
- ・多様化の尊重 など

基礎・土台

学校マネジメント力
社会で支えるこどもの育ち

相互支援・相互理解ができる

不祥事を起こさない学校

学校



連携



家庭
地域

連携

事務局



管理職

効率的・自発的な教員

連携

教員

教員

めざす学校

連携

連携

ムダを省いて

余裕のある体制へ

**本資料（第1回ワーキンググループミーティング（WGM）の
抜粋版まとめ資料）の内容を土台として、
第2回WGM以降は、具体的な取組等について議論を行う**

第2回WGMの協議内容については、次回の懇話会にて報告